

第3章

人・物・情報を高度につなげる

- 1 高速移動の網を広げる
- 2 鉄道をさらに便利にする
- 3 安全で快適な主要道路でつなぐ
- 4 誰もが安心な地域交通システムをつくる
- 5 双方向の情報通信基盤をつくる
- 6 にぎわいの市街地をつくる

第3章 人・物・情報を高度につなげる

1 高速移動の網を広げる

現状と課題

- 本市は京都市に隣接している上、大阪、神戸とも至近であることから、これら京阪神都市部へのアクセスの向上及び時間距離の短縮は、本市の発展に大きく関わります。
- 現在、園部、八木地域には、京都縦貫自動車道の一区間として京都市の沓掛ICと京丹波町の丹波ICを結ぶ京都丹波道路がほぼ東西に走っており、市内には園部、八木西、八木中、八木東の4つのインターチェンジがあります。京都縦貫自動車道は、北部の綾部安国寺JCT～宮津天橋立IC間（綾部宮津道路）と南部の久御山IC～大山崎JCT間（京都第二外環状道路）も開通しており、これらの道路は平成26年度内に全線が接続される予定となっています。この開通によって本市と京都府北部や若狭方面及び京都府南部や奈良方面とのアクセスが大きく向上することになります。
- 一般道路において京都市との連携を強化するためには、国道9号の機能強化が不可欠といえます。このため、亀岡市内における渋滞の解消や京都市内千代原口交差点の立体化の早期完成を要望していく必要があります。
- 本市周辺の広域幹線道路の主な動向としては、国道423号、国道477号の拡幅整備があげられます。国道423号は、大阪市と亀岡市内国道9号を結ぶ路線で、平成19年には箕面市内の一部区間が有料道路として供用開始し、京都府中部と大阪市の時間距離の短縮が図られました。しかし、本市と大阪圏との時間距離をいっそう短縮するためには、国道423号の亀岡市内における狭あい箇所の改修のほか、亀岡市と本市を結ぶ国道の機能向上を図ることが課題です。国道477号は三重県四日市市から、途中本市を通り、大阪府池田市へ至る路線で、狭あい箇所が多く、改修工事が進められています。今後も本市と京都市内、阪神都市部、滋賀県方面とのアクセスの向上を図るため、拡幅整備を促進していく必要があります。
- これらの路線の改修については、沿線各自治体と結成した期成同盟や協議会があり、長年にわたって活動を進めていることから、今後もこれらの活動を基本とし、実現をめざす必要があります。

施策の方針

（1）広域アクセスの強化

- ◎京都縦貫自動車道の全線開通を、関係市町とともに促進していきます。
- ◎「国道423号整備促進協議会」の活動を通じて、法貴峠など国道423号の拡幅整備を、関係市町とともに促進していきます。また、「国道477号改修促進期成同盟会」の活動を通じて、国道477号全線の早期の拡幅完了を要望していきます。
- ◎国道9号の京都市内や亀岡市内の早期改修や渋滞解消のための整備を要望していきます。

（2）広域ネットワークを見据えたまちづくり

- ◎京都縦貫自動車道の全線開通予定を、市民や来訪者、企業などに積極的に情報提供し、本市の活性化に結びつけます。
- ◎京都縦貫自動車道の全線開通や国道423号のアクセスの向上を見据えた定住促進や企業誘致、観光振興を進めます。

みんなで出した

アイデア



- ◎国道423号のバイパス整備など、広域交通の動向を視野に入れた計画を立てる。
- ◎沿線自治体と一体となった活動を基本として国へ地方の声を届ける。

2 鉄道をさらに便利にする

現状と課題

- 本市北西には、京都駅始発で日本海側へ至るJR山陰本線が走っており、市内に八木駅、吉富駅、園部駅、船岡駅、日吉駅、鍼灸大学前駅、胡麻駅の7つの駅があります。現状では園部駅から京都駅まで普通電車で1時間程度の乗車時間を要していますが、平成21年4月には京都・園部間の完全複線化による運行開始予定となっており、これによって、普通電車で10数分の乗車時間の短縮（園部・京都間）や快速を含む列車の増発が見込まれます。
- 複線化により市民の生活圏の拡大や定住人口の増加が予測される一方で、市内に住む学生や就労者が亀岡市や京都市へ流出することも予測されます。今後は市街地整備など定住促進施策により、複線化を本市の活性化に結びつけるまちづくりが必要です。また、市民からは園部駅以北の複線化の要望もあり、現在JR西日本へさらなる複線化を働きかけています。

■市内各駅1日平均利用者（乗降者）数

単位：人

駅名	定期	定期外	合計
八木駅	2,222	1,104	3,326
吉富駅	508	142	650
園部駅	6,604	2,586	9,190
船岡駅	115	8	123
日吉駅	583	170	753
鍼灸大学前駅	619	122	741
胡麻駅	677	121	798
計	11,328	4,253	15,581

資料：JR西日本（平成18年度）

施策の方針

（1）JR山陰本線の複線化

- ◎平成21年4月運行開始に向け、JR山陰本線の複線化を進めます。
- ◎園部駅以北の複線化や接続ダイヤの利便性の向上について、市民や関係市町及び

「山陰本線京都中部複線化促進協議会」などと連携し、引き続きJR西日本へ働きかけます。

（2）鉄道を活かしたまちづくり

- ◎公共交通ターミナルの機能を強化するため八木駅、吉富駅、園部駅の駅周辺整備を進めます。
- ◎利用客に対し、駅の美化を呼びかけるとともに、地域住民などによる駅周辺の美化活動や見回り活動などを支援します。
- ◎鉄道との接続を考慮したバス交通のダイヤ編成など鉄道利用者への便宜を図ります。
- ◎観光イベントの開催と集客によって鉄道利用客の増加を促し、JRと連携した観光振興を図ります。

私たち市民の取り組み

- 鉄道を積極的に利用しよう。
- きれいな駅を保つため、駅でのポイ捨てや路上の駐輪をやめよう。

- ◎複線化により、流入人口も定住人口も増える視点でのまちづくり、“学生のまち”の特性を活かしたまちづくりを進める。
- ◎山陰本線京都中部複線化促進協議会を最大活用して園部以北増発の要望を進める。
- ◎マツタケ祭り、ピアノコンサートなどのイベントで臨時列車運行や特急の停車があることから、今後もJRと連携しながら、イベントを開催し、鉄道利用の活性を進める。
- ◎住民の会をつくって、駅の美化運動と周辺整備を、一定の目的をもって進める。
- ◎JR胡麻駅までの部分複線化を進める。
- ◎駅前開発によるイメージアップや中心市街地までのアクセスの向上を図る。

みんなで出した

アイデア



3 安全で快適な主要道路でつなぐ

現状と課題

- 広大な本市にあって、安全で快適な道路の整備は、市としての一体化の醸成や他地域との交流、暮らしの利便性の確保や過疎集落の維持などまちづくりの根幹に関わる重要な施策です。
- 一般国道は、南部に国道9号、国道372号、国道477号、北部に国道162号が走っています。いずれの国道もほぼ東西を走り、京都縦貫自動車道路との結びつきもあって、本市と近隣市町を結ぶ広域幹線としての機能面が強くなっています。今後も危険箇所の解消や一部狭あい箇所の拡幅などが望まれます。
- 南北に長い本市の市内移動のためには、特に南北を走る府道と市道が重要な機能を果たしており、これらの整備、改良は市としての一体化に大きく関わります。
- 府道は、主要地方道9路線、一般府道14路線が走っています。現在、狭あいな箇所や未整備区間及び通行不能区間が随所に見られることから、整備、改良を府に働きかけています。
- 市道は、基幹道路となる路線の整備が進められてきましたが、危険箇所や狭あい区間もまだ多く、これらの整備、改良は過疎化防止の上でも重要な施策となっています。
- これらの他、広域農道や広域林道もまた物流や生活のための道路としての機能を果たしており、今後も整備を図る必要があります。
- 園部、八木地域の都市計画区域においては、計24路線の都市計画道路が都市計画決定されており、一部事業認可を受けて整備を進めています。街中における在来の道路は狭い路線が多く、市街地の活性化や利便性の向上のためにも、引き続き整備を進めるとともに、新たな都市計画決定もめざしていく必要があります。

- 急峻な地形も多い本市にあって、各道路整備においては、安全面の確保を最優先に取り組む必要があります。また、これまでの車優先の道路整備から歩行者優先の人にやさしい安全で歩いて楽しい道づくりが求められています。

施策の方針

（１）広域幹線道路

- ◎ 市として総合的な道路交通計画を樹立し、市全体の体系的かつ将来を見据えた道路ネットワークのビジョンを描き、各国道の危険箇所の改修や機能向上を国に働きかけます。
- ◎ 国道9号、国道162号、国道372号及び国道477号の拡幅の早期完了や機能強化を促します。

（２）地域幹線道路

- ◎ 各府道については、市域の一体化を促進するため危険箇所や狭あい箇所、通行不能区間の解消に向けた早期の整備を府に働きかけます。
- ◎ 地域の実情に応じた市道の整備・改良に努め、生活道路の安全性、利便性の確保に向けた道路の整備を推進します。
- ◎ 市街地や駅周辺の機能向上を図るため、都市計画道路の整備を、市街地再開発事業などの面的整備と一体的に計画的に進めます。
- ◎ 広域農道や広域林道の整備を計画的に進めます。

（３）安全で快適な道づくり

- ◎ すべての人にとって安全・安心で利用しやすい道路整備を進め、危険箇所の点検及び改善と交通安全施設の設置などを図ります。
- ◎ 災害を想定した緊急車両の通過などにも配慮した生活道路の改善を進めます。
- ◎ 自転車専用レーンの整備を検討します。

私たち市民の取り組み

- きれいな道を保つため、ポイ捨てや違法な路上駐車をやめよう。また道路美化活動に参加しよう。
- 歩いて楽しい道づくりのため、地域の緑化などを進めよう。

みんなで出した

アイデア



- ◎市域を一体化する道を早期に整備する。現在アクセスが良くない地区も、そのことによって自然環境が素晴らしく、団塊の世代の住宅地となりうる。
- ◎道路整備については災害も視野に入れ、人口の少ないところにも配慮した安全の視点を持って進める。

道路網図



4 誰もが安心な地域交通システムをつくる

現状と課題

- 本市では、日吉、美山地域を走るバス路線を旧町から引き継ぎ、南丹市営バスとして継続運行しています。合併後は美山園部線が新規路線として加わり、スクールバスの一般混乗や地域への委託方式も一部取り入れながら計16路線を運行しています。
- また、民間バス会社が園部、八木地域での運行を行っています。
- 園部地域の一部は民間事業者への委託によってコミュニティバス、スクールバス（通称：ぐるりんバス）3路線を運行しています。
- これらのほか、介護予防や介護の必要な高齢者及び障がいのある人を対象とした外出支援サービスがあり、医療機関などへの送迎を行っています。
- 地域間交流のためには公共交通が大切です。また通学者や高齢者、要援護者などにとって、これらの地域交通システムは欠かすことのできない重要な移動手段であることから、今後も安心できる交通ネットワークの充実を図る必要があります。

施策の方針

（1）バス交通

- ◎各地域のニーズを把握した上で「南丹市バス交通整備計画」を策定し、体系的なバス交通網の維持と拡充を図ります。
- ◎バスシステムの利便性を高めるとともに、通勤通学における利用促進やノーマイカーデーの機会を通じて積極的にバスの利用促進を図ります。
- ◎誰もが乗り降りしやすいノンステップバスの導入などに努めます。

（2）多様な公共交通システム

- ◎多くの集落が広大な市域に点在し、多くの集落で過疎化、高齢化が進むと見込まれる本市にとって有効な移動支援方法や交通システムのあり方を市民とともにつねに検討し、必要に応じて導入を図っていきます。また、小型車輛の導入やオンデマンドシステムによる移送、民間委託などを視野に入れます。
- ◎障がいのある人や高齢者が安心して外出し社会参加できるよう、市が実施する外出支援サービスの充実を図ります。また、NPOなどによる福祉運送活動を支援します。
- ◎アイドリングストップ自動車、ハイブリッドカー、燃料電池自動車など、環境に配慮した車輛の導入を図ります。

私たち市民の取り組み

○高齢化が進む集落も多く、みんなで助け合える地域交通システムを考えていこう。

みんなで出し合った



- ◎小型マイクロバスを運行させる。
- ◎団塊の世代が一斉に免許を返納する時期が来ることと公共交通の利用増が予想される。小型バスがオンデマンドでドア・トゥ・ドアで走行し、ニーズが増えているという事例に習い、導入を進める。
- ◎交通体系の構築にあたっては、自動車を持たない市民や障がいのある人の立場に立った視点を持って進める。
- ◎環境問題の視点に立った車輛を導入する。

5 双方向の情報通信基盤をつくる

現状と課題

- 今日の情報化社会においては、高度な情報通信基盤が行政サービスの提供や市民生活のために必要不可欠なものとなっています。
- 本市は、日吉、美山地域のほぼ全域が難視聴地域であり、特に美山地域についてはブロードバンドサービスが提供されていない状況です。このため、都市部との情報格差をなくし、市内全域でさまざまな情報サービスを得られるよう、各家庭や事業所、公共施設を光ファイバーで結び、ケーブルテレビやインターネットサービスを提供する、南丹市地域情報通信基盤整備事業を実施しており、平成20年度には全市域でケーブルネットワークが完成します。
- 南丹市情報センターでは、自主制作番組を制作しケーブルテレビで放映しており、各地域の暮らしや市民活動に密着し、市の一体感を形成する番組づくりを進めています。
- 高度情報通信基盤については防災・防犯、在宅医療や福祉サービス、電子申請手続など多様な分野への活用が考えられることから、今後多面的に検討を進め、豊かな暮らしを支える充実した公共情報サービスを実現していく必要があります。

施策の方針

(1) 情報通信基盤

- ◎南丹市地域情報通信基盤整備事業を進め、市内全域に光ファイバーを整備します。
- ◎高度情報ネットワークの活用を広げるため、市民や事業所にサービス加入を促します。
- ◎情報通信技術の動向を調査し、つねに情報通信環境の最適化を図ります。またハード、ソフトの保守体制の充実を図ります。

(2) 情報提供

- ◎市民ニーズに対応し効果的、計画的な地域情報化を進めるため、「地域情報化計画」を策定します。
- ◎南丹市情報センターの自主制作番組を充実し、市の一体化の形成と住民の交流を図ります。また、定時放送のみならずインターネットによる番組のデータ配信により、いつでも見ることができるシステムを検討します。
- ◎高度情報通信基盤を、防災、医療、オンデマンドの交通システム、公共施設予約などさまざまな市民サービスに活用するため、検討を進めます。

(3) 情報環境

- ◎より多くの市民が高度情報通信基盤を利用できるよう、高齢者などを対象としたパソコンや多チャンネルのテレビ、携帯電話の操作に関する勉強会などの充実に努めます。
- ◎インターネットなどの双方向情報システムにおけるセキュリティについて、市民に対し啓発を進めます。

私たち市民の取り組み

- ケーブルテレビに加入しよう。
- インターネット社会での犯罪やウィルスなどの危険を学び、自ら被害を防ぐよう努めよう。
- 情報社会や情報機器操作について家族や仲間同士で積極的に学習しよう。

みんなで出した

アイデア



- ◎自主製作番組は決まった時間の放映にとどまらず、インターネットでの番組配信も行う。
- ◎情報通信基盤を活用して病院や施設の予約などでもできるシステムを導入する。

6 にぎわいの市街地をつくる

現状と課題

都市計画

- 本市の都市計画区域は、本市と亀岡市からなる南丹都市計画区域に指定されており、園部地域と八木地域に都市計画区域があります。国道9号沿道の活性化に対応した開発誘導や合併による市の一体化のためにも、今後は府との調整を図り、新たな市街化区域の指定などを含む都市計画の見直しが必要となっています。

商業

- 郊外型大型店が増加した近隣市町への消費の流出などによって、近年市内の商品販売額は、大幅に減少しています。これによって身近な地域の商業が失われつつあり、車を持たない子どもや高齢者世帯、学生にとって日常的な消費生活が不便になっています。本市の活性化を図る上でも、今後魅力ある拠点となる商業施設や身近な消費を支える商業機能の誘導が必要となっています。

市街地整備

- 広大な本市には、地域ごとにその核となる市街地があり、住民の暮らしの上で重要な機能を果たしています。
- 全国的に旧来からの市街地が空洞化し、その活性化のための取り組みが進められていますが、本市の中心と位置づけられる園部地域の市街地も、定住人口減少と高齢化、商業の低迷が進んでおり、かつてのにぎわいを失っています。また、狭あい歩道が未整備の道路や回遊性の低さが交通環境を悪化させており、地域の振興を阻害する要因となっています。このため、現在は平成23年度の完成をめざして、市街地のシンボルロードとなる都市計画道路と重点整備地区の土地区画整理を進めています。また大雨時には水害も発生している地区であることから雨水対策を進めています。今後はこれらハードの整備に伴い、魅力的なまちとしての再生をめざすために、空き店舗を活用した来訪者を招き入れる新たな仕組みづくりやイベント開催などによる活性化が求められています。

基本計画

- JR山陰本線の複線化に伴い、市内各駅及び駅周辺の高度利用や新たな都市機能の整備が求められています。園部駅は、利用者が増加してきたにも関わらず、駅東側においてにぎわいを演出する空間や商業機能などがなく、今後の活用ビジョンが求められています。吉富駅については、22.7haを対象に吉富駅西地区土地区画整理事業が進められています。八木駅については10.7haを対象に八木駅西地区土地区画整理事業が計画されています。いずれの土地区画整理事業も地元住民を主体とした組合による意思決定を基本として進められており、本市の定住人口増加の上でも重要な事業といえます。今後は複線化に伴う八木駅舎の改修や駅前広場の整備が課題です。
- これまで進められてきた土地区画整理事業による住宅地や現在区画整理が進められている内林町も含め、今後はこれらの新たなまちにおいて早期に転入や商業立地などが進むよう、連携していく必要があります。
- 各地域の支所がある地域拠点やJR各駅周辺については、地域住民に密着した重要なエリアとして、今後も利便性の向上やにぎわいの創出を図った取り組みを進める必要があります。
- いずれの整備においても、安全で快適な道づくりや快適な空間を創出するために、道路整備上の歩行者への配慮や公園緑地の整備が求められています。

■ 商業の事業所数・従業者数・年間販売額の状況

事業所数(件)	従業者数(人)	年間販売額(百万円)
452	1,993	27,955

資料:商業統計調査(平成16年)

施策の方針

(1) 都市計画

- ◎ 新たな市街化区域の設定も含め、都市計画を見直し、市街地整備、道路ネットワーク整備、環境保全など、土地利用の方向性を明確に定めた都市計画を推進します。
- ◎ 「都市計画マスタープラン」及び「緑の基本計画」の早期策定を図ります。

(2) 商業

- ◎ 魅力ある商業の集積を促すため、商工会などの民間団体、各事業所、まちづくり機関やNPOなどのまちづくり活動を支援します。
- ◎ 地元商業者が販売促進や流通、顧客の確保に向けて意識を高めながら自ら商業の活性化を図れるよう、研究、人材育成、計画策定などのソフト面や、店舗の再編、商店街整備などのハード面に関して、商業者に各種支援制度の活用を促し、市としても支援を進めます。
- ◎ 山間集落や市街地などそれぞれの地域の住民にとって必要な商業の育成を図ります。

(3) 地域の核となる市街地整備と定住促進

- ◎ 本町地区(園部地域)において、市内外の多くの人でにぎわう市街地としての再生をめざし、都市計画街路の整備と土地区画整理を進めるとともに、シンボルとなる交流拠点施設の整備を検討します。また雨水排水路などの整備による水害対策を進めます。あわせて、空き店舗対策やイベント開催、意欲的な経営者や工房などの誘致において地区住民らを支援します。
- ◎ 地元地権者の組合とともに、吉富駅西地区土地区画整理事業を進め、また、八木駅西地区土地区画整理事業の着工を図ります。
- ◎ JR各駅の利便性向上に努めるとともに、駅前広場の整備や周辺整備を検討します。
- ◎ 八木、日吉、美山地域の暮らしの中心となる地域拠点について、利便性の向上やにぎわいの創出を図ります。
- ◎ 各地区の開発においては防災対応とともに、子ども、高齢者、障がいのある人にも配慮した街路や公園、広場の整備、上下水道などのインフラ整備を図ります。また、住宅整備や商業施設の誘導に努めます。

(4) 身近な公園緑地

- ◎ 市民が身近で緑や自然に親しめるよう市街地や住宅地において都市緑化に努めます。
- ◎ まちなかにおいて、魅力ある公園の整備を進めます。
- ◎ 公園の遊具の点検や施設の老朽化対応など公園を適切に管理し、子どもから高齢者まで、多様な世代の人々が楽しめる公園環境の充実を図ります。

私たち市民の取り組み

- 市街地活性化にみんなで取り組もう。
- 市内の商業を消費者として応援しよう。
- 定住促進とまちの未来のため、土地区画整理事業をみんなで進めよう。
- 公園を大切にし、きれいで快適な公園のための維持管理活動に参加しよう。

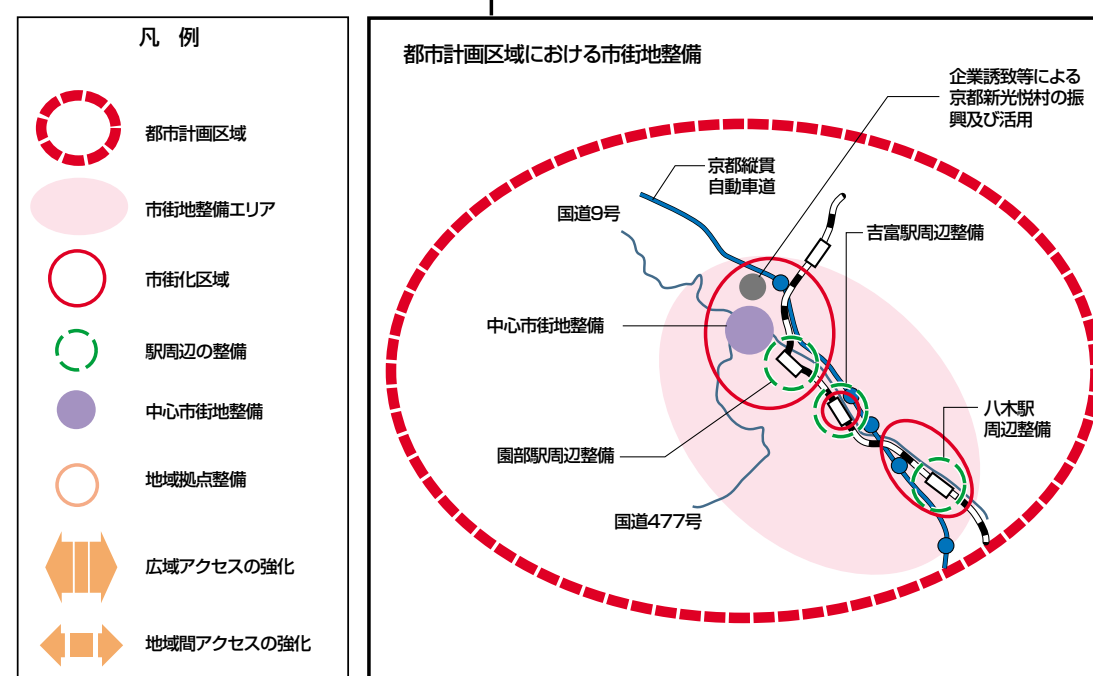
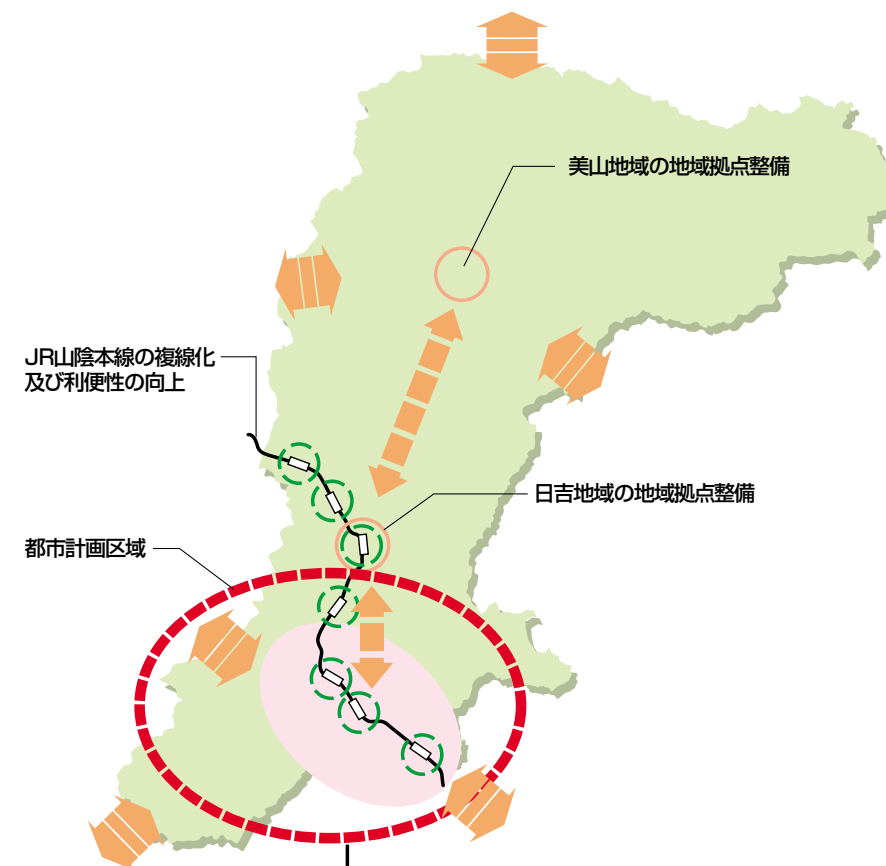
みんなで出した

アイデア



- ◎工場の拡張や住居の増築などのニーズを反映した都市計画を進め、適正なルールのもとで活性化を促す。
- ◎本町通りの空き店舗を利用し、市内学校卒業生の工房が開設しているが、今後は若者が根づくために、空き家を学生にアッセンするなどの大きなバックアップを進める。
- ◎八木駅西及び吉富駅周辺の土地区画整理事業の早期完成、宅地開発を進め、住宅建設の進展を図り、人口増による購買力の向上につなげる。
- ◎駅の改修やエレベーターの取り付けを進める。

■ にぎわいの拠点整備の考え方



ともにめざす目標指標

基本計画

区分	指 標 名	現 況	年度	目 標	年度	備 考
2 鉄道をさらに便利にする	市内全駅乗降客数の増加	15,581人/日	H 18	⇒ 18,000人/日	H 24	
3 安全で快適な主要道路でつなぐ	平成24年度までに完了予定の市道改修の完了	7路線	H 18	⇒ すべて完了	H 24	
4 誰もが安心な地域交通システムをつくる	市営バス利用者の増加	254,944人/年	H 18	⇒ 255,000人/年	H 24	
5 双方向の情報通信基盤をつくる	ケーブルテレビへの接続世帯数	8,755世帯	H 18	⇒ 12,500世帯以上	H 24	
6 にぎわいの市街地をつくる	市内年間商品販売額の増加	2,795千万円	H 16	⇒ 2,800千万円	H 24	(商業統計調査) 目標年次は商業統計 予定実施年。